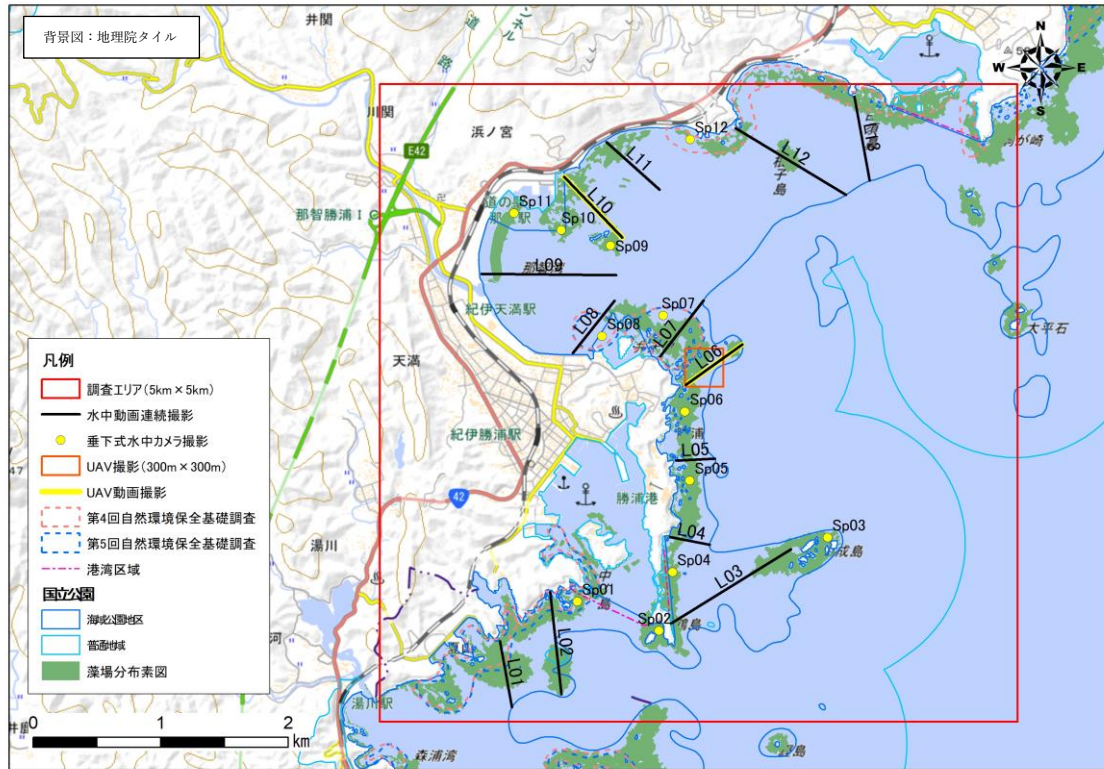


(1) 調査海域名	四国-九州沿岸海区 那智勝浦町沿岸
(2) 調査海域の所在	和歌山県 那智勝浦町地先

(3) 調査海域及び調査位置図

【調査位置図】



(4) 調査位置の詳細 (WGS84)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点		沖側基点		測線長 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	526
2	-	-	-	-	805
3	-	-	-	-	1,103
4	-	-	-	-	319
5	-	-	-	-	303
6	-	-	-	-	544
7	-	-	-	-	555
8	-	-	-	-	526
9	-	-	-	-	1,058
10	-	-	-	-	661
11	-	-	-	-	557
12	-	-	-	-	1,012
13	-	-	-	-	668
測線長 計					8.6km

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和2年6月9日 (UAV撮影:7月20日)

(6) 調査実施者 株式会社パスコ 北野武司 (調査責任者)

(7) 調査海域の概要

本海域は、紀伊半島南東部に位置しており、第4回および第5回の自然環境保全基礎調査では、ガラモ場を中心に、アラメ・カジメ場、アマモ場の分布が確認されている。紀伊半島西側では磯焼けにより藻場が減少している中で、東側の本海域では現存しているとの情報がある。

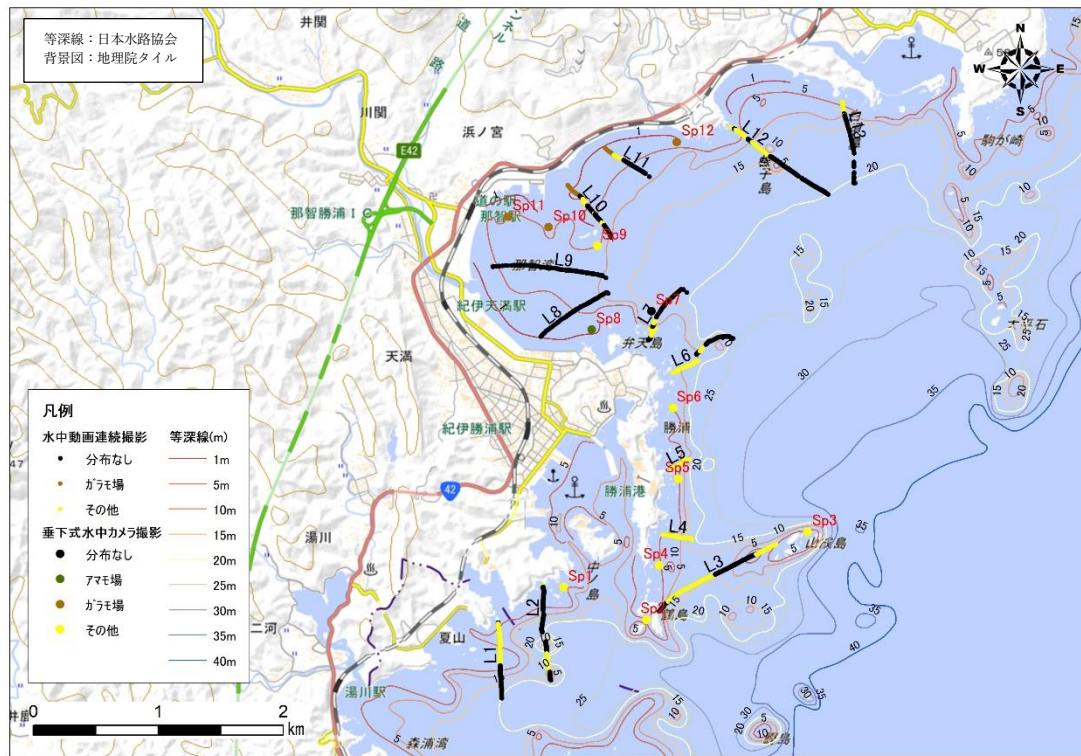
本海域を含む木灘・串本周辺は、生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）に指定されており、多様なサンゴが確認されている他、那智湾はスナメリの繁殖も確認されている。

現地調査は、森浦湾北側から那智湾にかけての藻場を対象として実施した。

本海域での高度100mの年間平均風速は6m/s前後となっている（NeoWins（洋上風況マップ）：NEDO）。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



**測線 1**：森浦湾北側の調査測線、水深 D. L-8.6～-20.7m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂等が混在し、多様であった。水深 D. L-20m 以浅において、小型藻類が確認された。

**測線 2**：森浦湾北側の調査測線、水深 D. L-2.6～-21.4m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在していた。岩盤、礫上等の一部に小型藻類が確認された。

**測線 3**：勝浦港湾口の鶴島から山成島にかけての調査測線、水深 D. L-5.0～-19.1m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在していた。部分的に石灰藻類、テングサ類等の小型藻類が確認された。

**測線 4**：勝浦港東側の調査測線、岸側は急峻な崖となっており、水深 D. L-5.2～-21.1m、底質は主に岩盤、巨礫、礫が混在していた。測線全体にわたって、石灰藻類、テングサ類等の小型藻類が確認された。

**測線 5**：勝浦港東側の調査測線、岸側は急峻な崖となっており、水深 D. L-6.7～-19.2m、底質は主に岸側が岩盤、巨礫、沖側は礫、砂が混在していた。測線全体にわたって、テングサ類等の小型藻類が確認された。

**測線 6**：勝浦港東側の調査測線、水深 D. L-9.0～-24.6m、底質は岸側の水深 D. L-20m 付近までは岩盤、巨礫、礫が混在し、それ以深は砂であった。岩盤、礫上等に小型藻

類が点生で分布していた。

**測線 7 :** 那智湾南側の調査測線、水深 D. L-3.5~-19.6m、底質は岸側の水深 D. L-10m 付近までは岩盤、巨礫、礫等が混在し、それ以深は砂であった。岩盤、巨礫上の一部に小型藻類が確認された。

**測線 8 :** 那智湾内の調査測線、水深 D. L-1.6~-13.6m、底質は主に砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

**測線 9 :** 那智湾湾奥の調査測線、水深 D. L-3.6~-11.2m、底質は主に砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

**測線 10 :** 那智湾北側の調査測線、水深 D. L-1.7~-10.5m、底質は岸側の水深 D. L-5m 以浅では巨礫、礫が混在し、それ以深は主に砂で時折巨礫が混在していた。水深 D. L-5m 以浅ではホンダワラ類が疎生から密生で分布しており、それ以深の岩盤や礫上の一部に石灰藻類が分布していた。

**測線 11 :** 那智湾北側の調査測線、水深 D. L-1.7~-11.0m、底質は主に巨礫であった。岸側の水深 D. L-4m 以浅において、ホンダワラ類が痕跡程度から疎生で分布していた。

**測線 12 :** 那智湾北側の調査測線、水深 D. L-2.7~-20.0m、底質は岸側の水深 D. L-15m 以浅では岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は砂であった。岩盤、巨礫上に部分的に小型藻類（テングサ類、石灰藻類）が確認された。

**測線 13 :** 宇久井港周辺の調査測線、水深 D. L-3.9~-20.4m、岸から急に水深が変化していた。底質は岸側の水深 D. L-15m 程度までは巨礫、それ以深は砂であった。巨礫上に小型藻類（テングサ類、小型藻類）が確認された。



小型藻類（石灰藻類・テングサ類）（測線 1）



ホンダワラ類（測線 10）

（8）調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】



地点番号	水深 (D.Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-6.2	岩塊・巨礫、砂・泥	石灰藻類60%、ウミワカメ30%、ホンダワラ類10%	ホンダワラ類、ウミワカメとの混生藻場
Sp2	-17.5	岩塊・巨礫、礫、砂・泥	ホンダワラ類60%、石灰藻類30%	石灰藻類との混生藻場
Sp3	-9.6	岩盤、砂・泥	石灰藻類30%、小型藻類30%	小型藻類との混生藻場
Sp4	-8.0	岩塊・巨礫、礫	石灰藻類30%、小型藻類10%	小型藻類との混生藻場
Sp5	-11.8	岩塊・巨礫、礫	石灰藻類30%、ホンダワラ類10%	ホンダワラ類との混生藻場
Sp6	-14.2	岩塊・巨礫、礫	石灰藻類30%、ホンダワラ類10%	ホンダワラ類との混生藻場
Sp7	-19.0	砂・泥	-	寄り藻、ごみなど
Sp8	-2.9	岩塊・巨礫、砂・泥	コアマモ10%	パッチ状にコアマモ
Sp9	-8.9	岩塊・巨礫	ホンダワラ類30%、小型藻類10%	小型藻類との混生藻場
Sp10	-6.8	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類30%、石灰藻類30%	石灰藻類との混生藻場
Sp11	-4.9	礫、砂・泥	ホンダワラ類30%	
Sp12	-3.8	岩塊・巨礫	ホンダワラ類+	



ホンダワラ類と小型藻類の混生藻場(地点9)

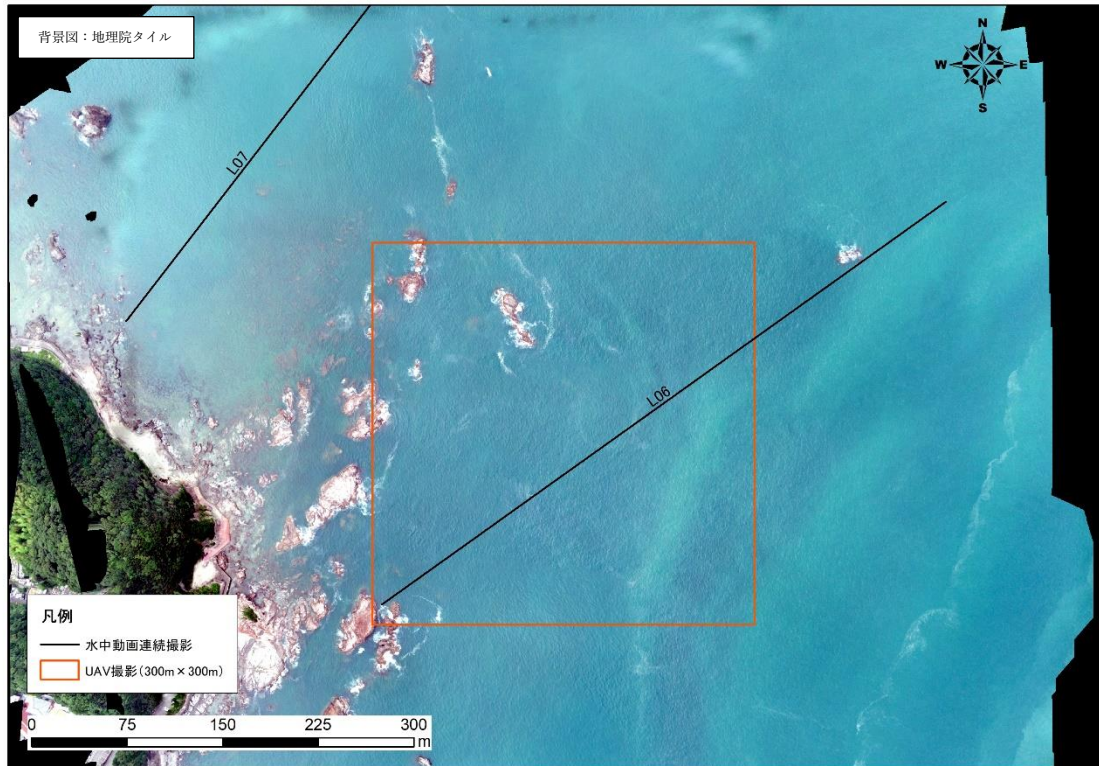


ホンダワラ類と石灰藻類の混生藻場(地点10)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、岩盤等、底質の状況は確認できるが、藻場の分布に関しては明確ではない。



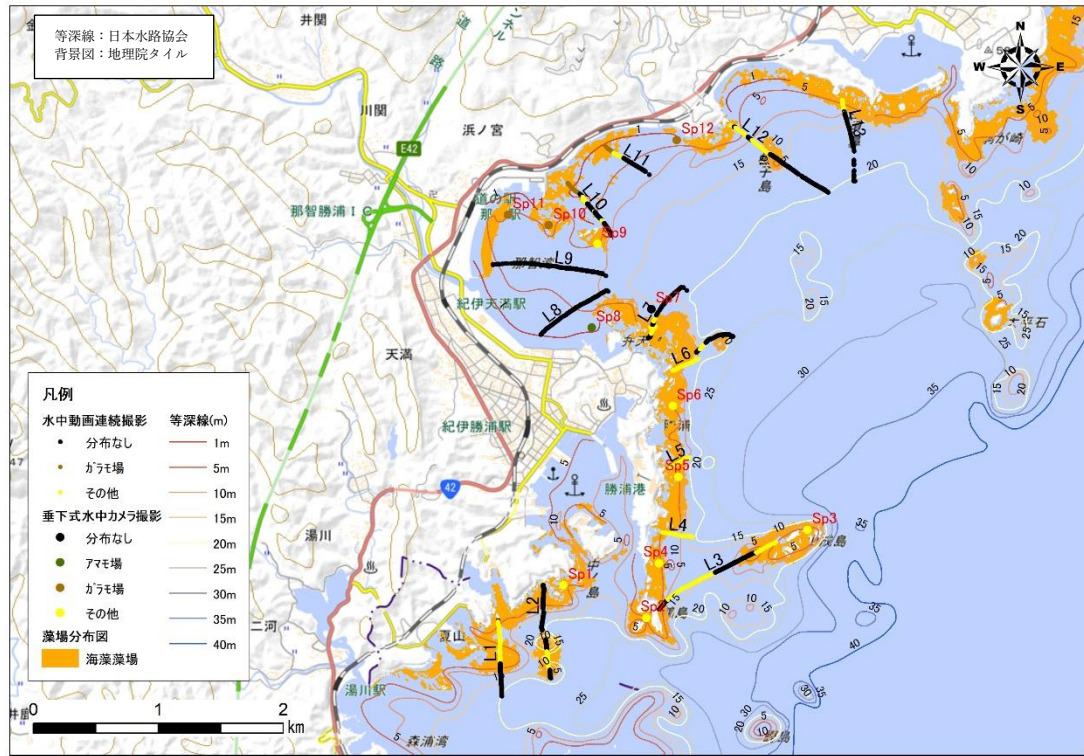
撮影時間	潮位※ <sup>1</sup>	風向・風速※ <sup>2</sup>	波高	撮影高度	備考
2020/7/20 16:00～17:00	D. L 1. 29m	西北西 0. 9m/s	0. 5m 以下	149m	

※<sup>1</sup> 潮位は、気象庁浦神検潮所における 16 時時点の潮位表基準面上の値

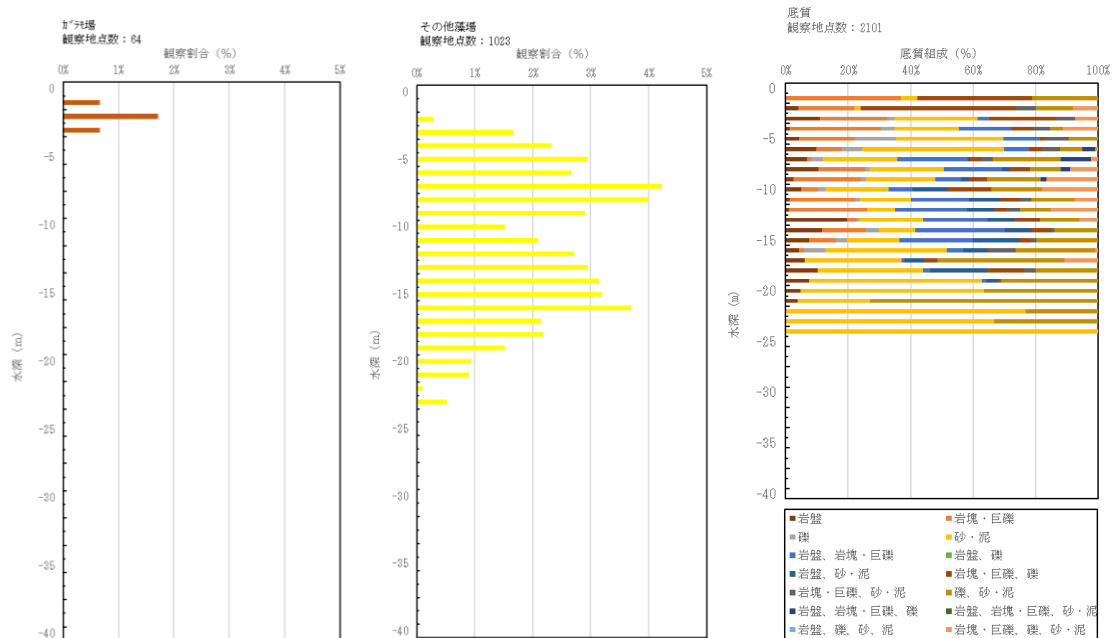
※<sup>2</sup> 風向・風速は、気象庁新宮観測所における 16 時時点の値

(9) 藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】



(10) まとめ

調査海域は、紀伊半島南東部の森浦湾北部から那智湾にかけての海域である。調査海域の中央には砂浜の那智湾があり、岸近くの一部に海藻藻場がみられるが地先には砂質の海底が広がっている。

砂質の海底では、地点 (Sp. 8) において、コアマモがパッチ状に点生している状況が確認された。

那智湾の北側、南側は岩礁性の海岸であり、巨礫や岩盤上では、テングサ類などの小型海藻類が広範囲に分布する状況がみられた。

ホンダワラ類は那智湾の北側、水深 D. L-4~-5m 付近より浅所で痕跡程度~疎生しているのが確認されが、測線 10 では密生で分布する状況が局所的にみられた。

(11) その他特記事項

確認されたホンダワラ類としては、分布域からヨレモクモドキ、ヤツマタモクなどが想定されたが、撮影画像では細部形態の確認が困難であったことから、ホンダワラ類とし、種名の確定は行っていない。

※ 潮位補正は、気象庁推算潮位の浦神 (URAGAMI) を用いた。



